

第1分科会

対面 定員 対 面：80名 (加盟校優先定員：50名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

対面



オンライン (Zoom ミーティング)



講義形式

オンライン参加補足

オンライン参加者からの質問はチャットを利用して受け付けます。

身構えないで学べる
授業環境の構築を目指して

学生の主体的対話的学習が重視され、グループワークやグループディスカッションを取り入れた授業カリキュラムが組まれている。このような学習の支援は大変難しい。アイスブレイクをしても、学生同士の交流が思うほど深まらず学生同士の作業もうまく進まない。講義等もAIの影響を受ける時代となったが、大学教職員のこういった役割は当面なくなりそうにはない。本分科会では、学生の心理的安全性という視点からのご研究、学生ファシリテーター養成のための取組みについて、最後に学生からアイスブレイクの必要性をそれぞれご教示いただき、身構えないで学べる授業環境をいかに構築するかみなさんと議論したい。

▶ コーディネーター

右近 潤一氏 京都先端科学大学 経済経営学部 教授

▶ 報告者

山田 剛史氏 関西大学 教育推進部 副部長・教授

大島 和美氏 京都産業大学 教育支援研究開発センター F工房 嘱託職員

稲本 拓真氏、山脇 莉子氏、筒井 志俊氏 京都文教大学 学生

第2分科会

対面 定員 対 面：80名 (加盟校優先定員：50名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

対面



オンライン (Zoom ミーティング)



講義形式

オンライン参加補足

登壇者と参加者との議論は対面を主とし、Zoomチャット等を用いてオンライン参加者からの質問やコメントを取り上げます。

大学教育の起爆剤?! アカデミック DX

コロナ禍を経てオンライン授業やオンデマンド教材は身近な存在となり、デジタルトランスフォーメーション (DX) という言葉も広く耳目に浸透してきている。しかしながら、この変革はどこに、どのように到来しているのか。多くの大学教職員にとって、DXを具体的に目にする機会は少なく、やや抽象的なイメージを耳にする機会の方が多くないだろうか。そこで本分科会では、DXの取り組み事例を抑えつつ、DXによって (言葉通り) 変革した大学教育の事例について共有し、議論を深めていく。本分科会は、3人の先生にご登壇いただき、広く大学教育におけるDX (アカデミックDX) の状況と事例を報告いただき、その後の質疑応答を経て、参加者全員での議論を行う。

▶ コーディネーター

多田 泰紘氏 京都橋大学 経営学部 専任講師

▶ 報告者

村上 正行氏 大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 教授

重田 勝介氏 北海道大学 情報基盤センター 教授

森村 吉貴氏 京都大学 情報環境機構 准教授

第3分科会

対面 定員 対 面：140名 (加盟校優先定員：80名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

対面



オンライン (Zoom ミーティング)



講義形式

オンライン参加補足

対面でご参加の方々からのご質問にお答えします。Zoomでご参加の方は視聴のみとなります。

大学教育における AI の活用
ならびにその弊害

現在、第三次人工知能ブームといわれ、ついに一般の方にもAIの活用機会が広がってきている。教育現場への浸透も他ではなく、学ぶ側にも学ばせる側にもその恩恵は計り知れない。一方で、メリットばかりではなく様々なデメリットが指摘されているのも現状である。そこで本分科会では、ChatGPTをはじめとしたAIの仕組みやできること、できないこと、対面講義やオンライン講義などでのAIの活用事例、教育支援や今後の大学教育、身につけるべき技量などを3名の先生方にご講演いただきます。その後、3名の先生方にはパネルになっていただき、対面でご参加の方々からのご質問にお答えする形で議論を深めたい。

▶ コーディネーター

土屋 誠司氏 同志社大学 理工学部 教授

▶ 報告者

鈴木 基之氏 大阪工業大学 情報科学部 教授

松本 和幸氏 徳島大学 理工学研究部 准教授

榎原 絵里奈氏 立命館大学 情報理工学部 講師

第4分科会

対面 定員 対 面：24名 (加盟校優先定員：14名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

対面



オンライン (Zoom ミーティング)



講義形式

オンライン参加補足

オンラインの方の質疑応答はチャットで受け付けます。必要に応じて、コーディネーターから質問者に對し、補足説明の発言をいただきます。

大学における自校教育の効果と課題

現在、多くの大学では、初年次教育の一環として自校教育・「建学の理念」科目が実施されているが、学生からすると、あまり興味のある分野でない場合も多く、その授業運営においては困難を伴うことがある。ただ、各大学の「建学の理念」を具現化し、教育目標を達成していくためには、これらの授業で成果を上げていくことが重要なのではないだろうか。そこで本分科会では、「大学における自校教育の効果と課題」をテーマとして、3人のパネリストに登壇していただき、研究成果及び実際の事例報告をお願いした。そこから、実際に授業運営していく上で、どのような点に気をつけなければならないのか、困難な点をどのように解決していくのかということを考えていきたい。

▶ コーディネーター

坪井 剛氏 佛光大学 仏教学部 准教授

▶ 報告者

喜村 仁詞氏 岡山県立大学 保健福祉学部現代福祉学科 准教授

元根 朋美氏 帝塚山大学 全学教育開発センター 准教授

大谷 由香氏 龍谷大学 文学部仏教学科 特任准教授

第5分科会

 定員 対 面：80名(加盟校優先定員：50名)
オンライン：270名(加盟校優先定員：160名)

 対面  オンライン (Zoomミーティング)  講義形式
オンライン参加補足 質問については、Googleフォームで受け付けます。

ことばの教育はいかに変わる"べき"か

いわゆる生成AI技術の進化に伴い、いま高等教育では従来の教育手法や価値観が見直され、新たな教育のあり方を模索する必要性が高まっている。高等教育におけることばの教育は、コミュニケーション能力を高めつつも異なる文化を理解できるグローバルな人材を育成する上で必要不可欠である。その一方で、生成AI技術の普及により、言語学習のアプローチや教育メソッドが変化し、従来の授業体系とは異なる形での学びも可能となっている。このような文脈の中で、本分科会では2名の専門家にご登壇いただき、高等教育の現状を振り返りつつ、今後のことばの教育や留学生支援の展開(何が変わるのか、いかに変わるのか)について、参加者とともに理解を深めながら、未来のことばの教育の方向性を模索していきたい。

▶ コーディネーター

住田 哲郎氏 京都精華大学 共通教育機構 准教授

▶ 報告者

山中 司氏 立命館大学 生命科学部 教授

牛窪 隆太氏 東洋大学 国際教育センター 准教授

第6分科会

 定員 オンライン：270名(加盟校優先定員：160名)

 オンライン (Zoomミーティング)  講義形式
オンライン参加補足 質疑応答時間を設け、登壇者と参加者が意見交換する時間を設けます。

「ケア」に直面する学生を支えるために

コロナ禍でエッセンシャルワーカーへ着目が集まったが、私たちの暮らしには「ケア」は不可欠なものである。学生本人の学びの場では、障がいのある学生や学生生活に悩みを抱える学生へのケアが求められる。また、学生の中には家族や他者のケアを担う役割として生活し、大学生活上の困難に直面する者もいる。大学は教育機関として学生の学習を指導する役割を担うが、今日では、本来的な役割である教育指導を進めるためにも、学内の教職員との連携の中で「ケア」を必要としていたり、「ケア」の担い手として奮闘する学生を指導していくと同時に、学外の関係機関と協力をしながら学生のサポートを展開する必要がある。本分科会では「大学生とケア」に焦点を当て、学生が「ケア」についてどのような問題に直面しているのか、また、大学は学生と「ケア」について、どのように取り組む必要があるのか、考えていきたい。

▶ コーディネーター

中野 加奈子氏 大谷大学 社会学部 准教授

▶ 報告者

田中 智子氏 佛教大学 社会福祉学部 教授

河西 優氏 立命館大学 衣笠総合研究機構人間科学研究所 補助研究員
/Young Carers Action Research Project発起人

鈴木 美佳子氏 大谷大学 学生支援部 学生支援課(保健室)
/障がい学生支援チーム(横断型) チームリーダー

第7分科会

 定員 対 面：140名(加盟校優先定員：80名)
オンライン：270名(加盟校優先定員：160名)

 対面  オンライン (Zoomミーティング)  講義形式
オンライン参加補足 オンライン参加者からの質疑受け付けは、基本的にはチャットで考えています。必要に応じて、音声での発言も可能にしたいと考えています。

大学授業でICTでALしよう！

大学教育においても様々な場面でInformation and Communication Technology(情報通信技術、ICT)の活用が推奨されている。また、大学の授業におけるアクティブラーニング(AL)の導入も推奨されている。本分科会では、京都の大学から文系科目と理系科目のそれぞれの分野の授業におけるICTのALへの活用事例を紹介して、参加者のみなさまにとって有益になるような情報を提供したい。さらに、質疑応答や総合討論などを通して、活用法の進展や今後の可能性についても議論する。本分科会に参加した後に、試しに一度活用してみようと思えるような分科会にしたい。対面での参加者も、ノートPCなどを持ってきていただき、実際にいると試してもらいたい。

▶ コーディネーター

白鳥 秀卓氏 京都産業大学 生命科学部 教授
/教育支援研究開発センター 副センター長

▶ 報告者

伊藤 慎一郎氏 京都産業大学 情報理工学部 准教授

平井 重行氏 京都産業大学 情報理工学部 教授

長澤 直子氏 京都先端科学大学 経済経営学部 講師

第8分科会

 定員 オンライン：270名(加盟校優先定員：160名)

 オンライン (Zoomミーティング)  講義形式
オンライン参加補足 Googleフォームで意見を受け付けます。Googleフォーム上の質問を読み上げる形で進めます。なお、Zoomで指名して音声で発言を求める場合もあります。

生成AIと人類の未来：
技術、教育、魂、共存の可能性

生成AI技術が急速に進化し、それに伴う影響や哲学的な問いが多数生まれている。特に教育分野では生成AIとの付き合いかたが大きな課題となっている。この分科会では、生成AIの存在とその意味について深く掘り下げ、多角的な視点からの議論を行う。単に技術的な側面からではなく、人類の文化、社会、哲学、未来、教育におけるAIの位置付けについて議論したい。本分科会は、ただの講演会ではなく、積極的なディスカッションや質疑応答の時間も設けており、参加者には、自らの意見や疑問も積極的に投げかけていただきたい。先進的なテクノロジーが我々の社会へもたらす影響に関して真摯に向き合いたい方の参加を心より期待する。

▶ コーディネーター

川田 隆雄氏 同志社女子大学 学芸学部 教授

▶ 報告者

浅田 稔氏 大阪国際工科専門職大学 副学長

水上 拓哉氏 特定国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター
特別研究員

金子 雄太氏 同志社女子大学 現代社会学部 社会システム学科 助教

第9分科会



定員 対面：30名 (加盟校優先定員：18名)



対面



グループワーク形式

授業評価アンケートの
自由記述の自動分類とその応用

現在多くの大学で授業評価アンケートが実施されているが、自由記述のデータはどのように分析すれば良いのだろうか。本分科会では、登壇者より「授業評価アンケートの自由記述を自動分類するためのWebシステム」を紹介いただく。このシステムを用いれば、各自由記述に、その内容に対応した60数種類のカテゴリが付与される。参加者には、ご自身の自由記述データを用意いただき、システムを使っての分析を体験していただく。その後、参加者間で情報共有し、授業評価アンケートの更なる活用方法について模索したい。

※本分科会はハンズオン形式で行われますので、【ノートパソコン】と【分析したい授業評価アンケートの自由記述データ】をご持参ください。自由記述に紐付いた属性情報(例：自由記述が書かれた科目の科目群、自由記述を書いた学生の成績など)があれば、属性ごとの記述内容の違いの分析も体験できます。なお、全学のデータをお持ちでない方は、ご自身が担当する授業の自由記述データでもご参加いただけます。

▶ コーディネーター

根岸 千悠氏 京都外国語大学 共通教育機構 講師

▶ 報告者

松河 秀哉氏 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師

第10分科会

対面 32名 (加盟校優先定員：20名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

対面



オンライン (Zoomミーティング)



グループワーク形式

オンライン参加補足

オンライン参加者はグループワークを行いません。質問がある場合は、フォーム(当日、URLを提示)に入力頂き、グループワーク後に行う全体討論で紹介いたします。

どないします？
これからのキャリア教育と就職支援

ここ数年、キャリア教育や就職活動を取り巻く状況は変化が著しい。例えば、三省合意によるインターンシップ等の類型化、就職活動および就職支援のオンライン化、「ガクチカ」のネタづくりが目的化する学生の増加など、枚挙にいとまがない。本分科会はコロナ禍を経た現在におけるキャリア教育の取り組みおよび就職支援の現状を共有することを目的とする。就職活動の動向や各大学の事例を紹介しながら、これからのキャリア教育および就職支援のあり方を未来志向で検討したい。

▶ コーディネーター

中西 勝彦氏 京都文教大学 総合社会学部 助教

▶ 報告者

松高 政氏 京都産業大学 経営学部 准教授

岡本 鈴佳氏 株式会社マイナビ 就職情報事業本部 就職ナビ統括本部
関西ブロック 京都キャリアサポート1課 課長

代崎 拓也氏 京都文教大学・京都文教短期大学 就職部就職進路課 係長

第11分科会

対面 140名 (加盟校優先定員：80名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

対面



オンライン (Zoomミーティング)



講義形式

オンライン参加補足

質問などはチャットにて受け付けます。

学習指導要領が変わると
大学教育も変わる？

「子どもたちが自分で未来を切りひらいていけるように、生きていくための資質・能力を育ていく」ことを重視した新学習指導要領を履修した学生の大学入学がもう目前に迫っている。「探究活動・言語活動・情報活用能力の育成」を重視した探究型学習を経験した学生に対する大学での教育はどうするのか、どうすべきなのか。少子化がすすむ現代社会での大学の生き残り戦略として“特色のある大学教育の実践”が求められる昨今ではあるが、新学習指導要領を受けて大学教育を変革する必要はあるのか、ないのか。必要であるなら、どのような視点での改革が求められるのか。昨年度の分科会に引き継ぎとなるが、新学習指導要領を履修した学生の大学教育を理系と文系の双方向より考えたい。

▶ コーディネーター

石原 慶一氏 京都薬科大学 病態生化学分野 准教授

▶ 報告者

西岡 加名恵氏 京都大学 大学院教育学研究科 教授

谷口 和成氏 京都教育大学 教育学部 理学科 教授

宮野 公樹氏 京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授

第12分科会

対面 32名 (加盟校優先定員：20名)
オンライン：270名 (加盟校優先定員：160名)

オンライン (Zoomミーティング)



講義形式

オンライン参加補足

参加者からの質問はZoomのチャット機能を用い、必要に応じて音声で発言してもらいます。

“人・AI新世”の時代の学びとその支援

人の脳とAI(人工知能)が深く融合する時代(=“人・AI新世”)を迎えつつある中、高等教育機関における「教育」は、「学習者それぞれの学びへの支援」の体系へと自らを根源的に再構築していく必要に迫られようとしている。それは、例えば「単位制度」に象徴される現行カリキュラム構築原理への問い直し、キャンパスや教室の設計理念の再発見などへと展開していくことになるであろう。AIはその中で、学習者個々の「学習成果の可視化」を支えるツール/環境として重要な位置を占めることになると思われる。本分科会ではこのような問題意識に基づき、向こう5年程度の時間軸の中で、高等教育機関における「学習」と「その支援」、そして「ツール/環境」のあり方を考えたい。

▶ コーディネーター

築地 達郎氏 龍谷大学 社会学部 准教授

▶ 報告者

已波 弘佳氏 関西学院大学 副学長 情報化推進機構 機構長

AI活用人材育成プログラムプロジェクト統括 工学部 情報工学課程 教授

澁川 幸加氏 中央大学 文学部教育学専攻 特任助教

中央大学 教育力研究開発機構 研究員

玉木 和将氏 米インストラクチャ社(Canvas LMS供給元)
Channel Account Manager APAC Japan